

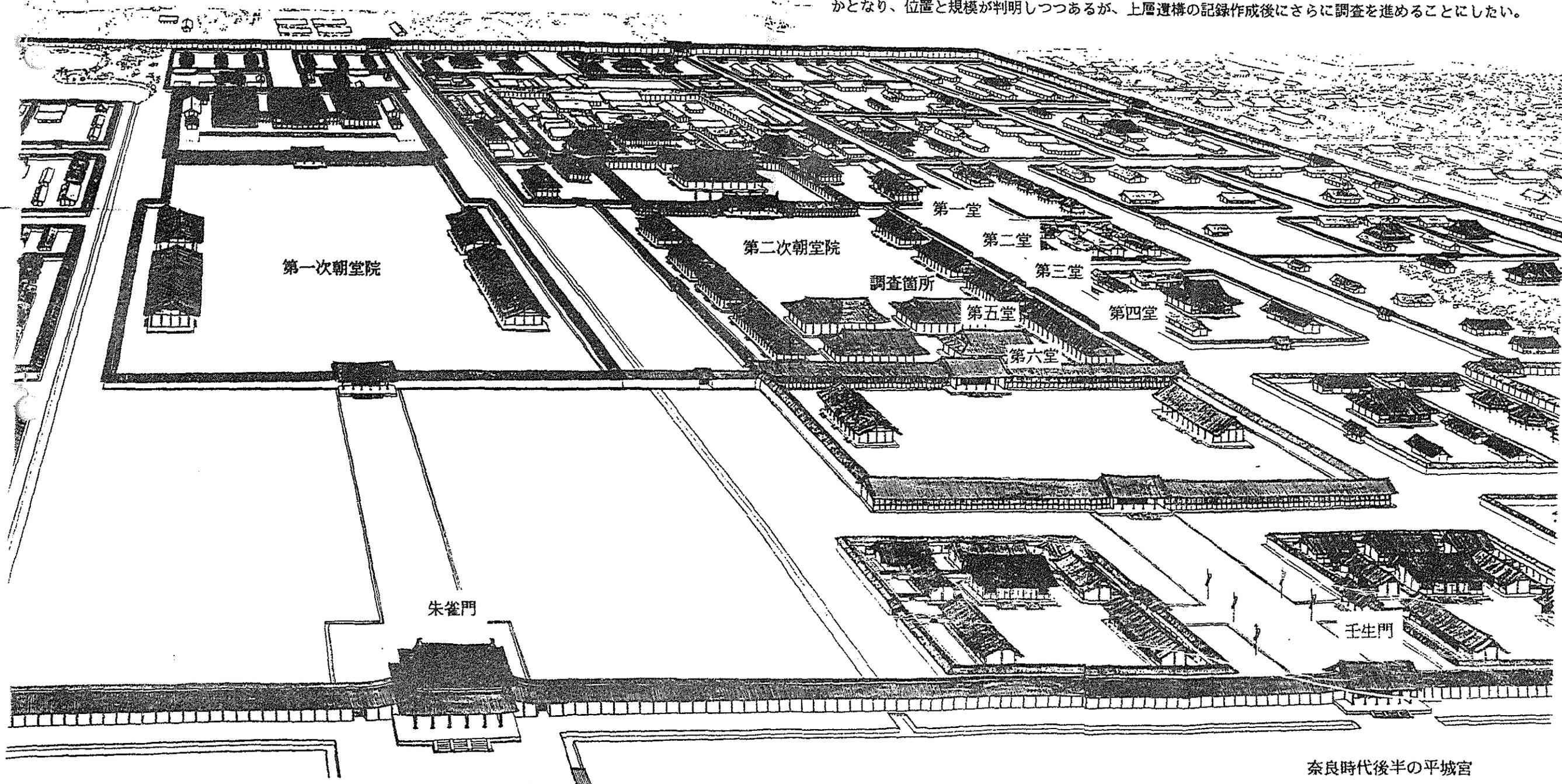
1 調査の目的

第二次朝堂院地区の東半分については、これまでに北から第一堂・第二堂・第三堂・第四堂までの朝堂を調査し(第173・161・203・213次)、また朝堂にはさまれた空間地である朝庭部分についても調査を続けてきた。これまでの調査で、第一堂から第四堂までは、いずれも奈良時代前半の掘立柱建物(下層)を、奈良時代後半に礎石建物(上層)に建て替えたことがわかっている。

今回の調査は、ひき続いて第五堂を明らかにすることを目的として実施した。第四堂までの南北棟と異なり、第五堂と第六堂は東西棟であり、東西棟については今回が初めての調査となる。調査は基壇を中心とする面積約2400m²を対象として、1月7日から開始した。これまでに、建て替えたあとの上層第五堂の規模が確かめられたので、主としてその成果を公開するものである。下層の第五堂についても存在が明らかとなり、位置と規模が判明しつつあるが、上層遺構の記録作成後にさらに調査を進めることにしたい。

平城宮第238次 第二次朝堂院東第五堂の調査

平城宮跡発掘調査部



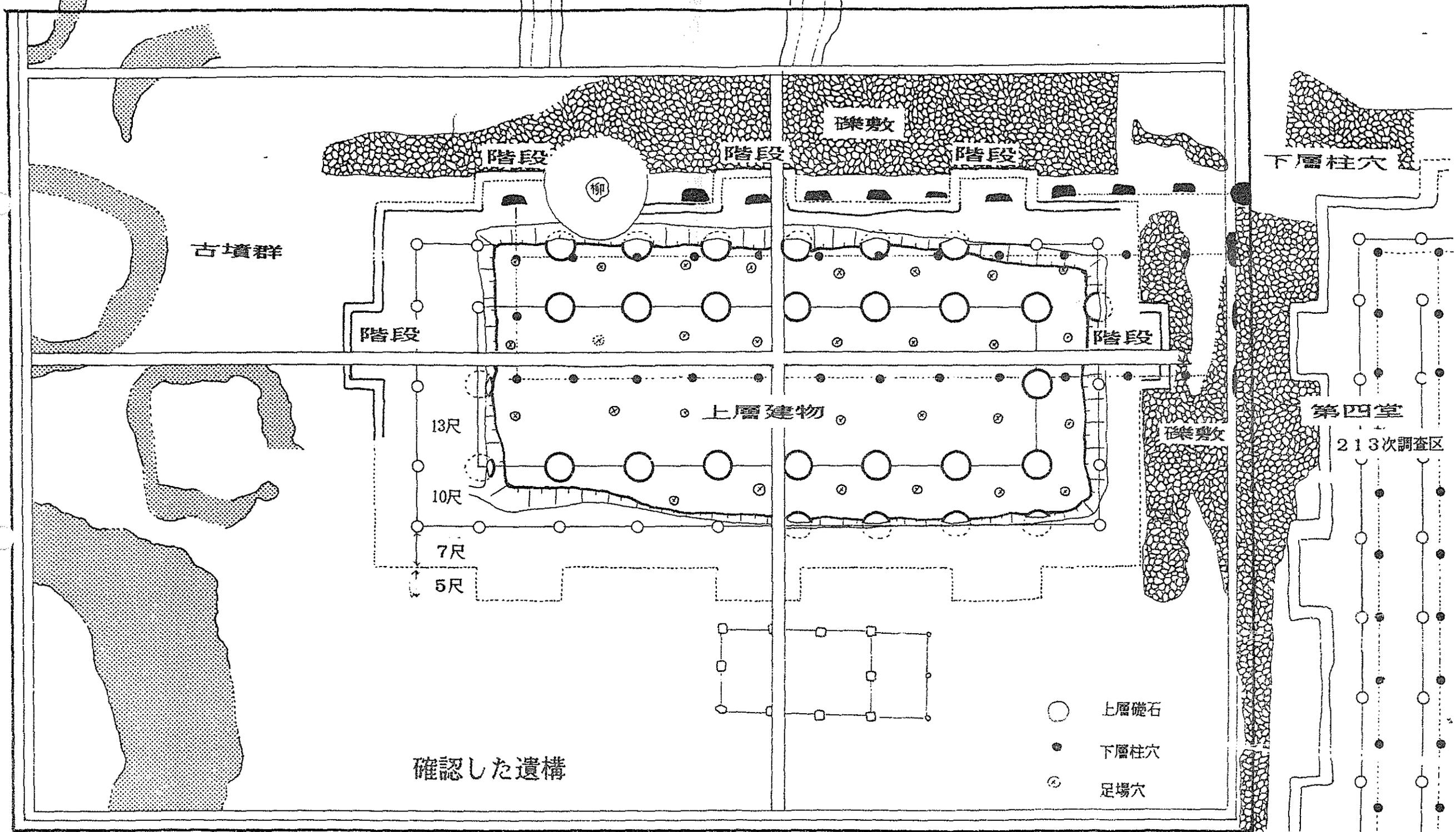
奈良時代後半の平城宮

188次調査区

第139次調査区



寺院址か



確認した遺構

- 上層礎石
- 下層柱穴
- ⊙ 足場穴

約200分の1

